

同窓会会長挨拶

同窓会創立50周年を迎えて

勝田 啓示

4

祝 千葉商科大学同窓会創立50周年

千葉商科大学同窓会の創立50周年に寄せて
人生100年時代を支援する母校の大学院教育
同窓会創立50周年によせて

内田 茂男
原科 幸彦
平野 泰宏

8 7 6

同窓会創立50周年の意義

時代の流れとともに

創立50周年を振り返る

大学と共に歩む同窓会

同窓会創立50周年に当たり

高橋 伸治
櫻田 均
三橋 二夫

9 10 12

中里 稔

13

特集 2

同窓会創立50周年を迎えて 同窓会役員、支部長からのご寄稿

特集 3

活躍する同窓生（卒業生からのメッセージ）

新型コロナウイルス感染拡大防止に対する本学の取り組み

（秋学期の授業実施に向けて）

本学の遠隔授業の取り組みについて

50代目学生自治会執行委員会

オープンキャンパススタッフの活動

人の心を動かす「SONE」

大場 克美
柏木 将宏
石川 稀月

35 44 48

松島 寧々

47

渡辺 裕也

49

学生活動紹介

本部からの報告

同窓会活動の自粛

会長・副会長・委員長会議開催

第50期第4回常任理事会開催

第50期第5回常任理事会開催

記念定期総会

愛知県支部 マスク・ハンドジェルを大学に寄贈

支部からの報告

同期会からの報告

その他瑞穂会・OB会・特定団体からの報告

同窓生寄稿

「同窓会専用ロゴデザイン最優秀賞」決定
卒業生のお宿・お店紹介「とり吉」

広報・IT委員会

50

同窓会活動

小峰 丈晴

55

64

60

58

54

51

51

51

50

50

50

50

50

| | | | |
|----------|---|----------------|-------------|
| 随筆 | 施されたら施し返す。恩返しです！ 真間川界限にて | 半澤 広幸 伊藤 雅敏 | 68 67 |
| CUC経営者会議 | CUC 経営者会議ニエス | | 70 |
| 教育後援会活動 | 教育後援会ニエス | | 74 |
| 授業紹介 | 地球を理解し世界を知る | 五反田 克也 | 75 |
| | ニエス・イベント | | |
| | 「サビズ創造学部」「CUC EPHICAL DAYS 2020」を開催 「政策情報学部」まちづくりオンラインゲーム「USCの政策でSHOW!」を制作 本学の改革力が高い評価 抗ウイルス・抗菌作用剤の塗布作業を実施 2020年度瑞穂祭の開催中止 | | 76 77 76 76 |
| | 国際センターニエス | | 78 78 |
| | コロナに負けない国際センター—Virtual International Square— | | 79 79 |
| | キャリア支援センターニエス | | |
| | 春学期・遠隔就職支援に関する報告 | 川 瀬 功 | 82 82 |
| | 地域連携推進センターニエス | | |
| | 2020年度CUC市民活動サポートプログラム（履修証明プログラム）開講中 2020年度地域志向活動助成金受給者決定 大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム | | 84 84 84 |
| CUCレポート | 京成電鉄株式会社、東京ベイ信用金庫、千葉県税理士会市川支部と包括協定を締結 | | 85 |
| | The University DINING レポート | | |
| | 新型コロナウイルス対策実施中 学生優先利用時間&営業時間変更のご案内 SDGsに関する取り組み レジ袋有料化のお知らせ | | 86 86 86 86 |
| | ライブラリーニエス | | |
| | 【学内者限定】在宅学習支援ページを開設 ライティングサポートセンター（WSC）オンライン公開講座と個別相談の実施について | | 88 88 |
| | 「省エネ生活のすすめ」 | | |
| | SONEから読者のみなさまへ | | |
| 著書紹介 | 『環境マネジメント・コントロール〜善行の内省と環境コスト・マネジメント〜』 著者：安藤崇 | 安藤 崇 | 91 91 93 |

▼同窓会支部事務局一覽 94

▼編集後記 96

同窓会創立50周年を迎えて

勝田 啓示

● 千葉商科大学同窓会会長
(昭34商)



2020年(令和2年)11月、同窓会は創立50周年を迎えます。歴代会長はじめ同窓生の結束と努力が歴史と伝統を支えてきたからこそこの日があり、あらためて意義深さを感じます。

本来ならば、一堂に会し躍進する母校に誇りをもち共に祝い喜び青春時代を語り合い、楽しいひとときを過ごすところであり、また、今年には東京オリンピック・パラリンピックの年でもあり、同窓会創立50周年は生涯忘れることのない記念となる年でありましたが誠に残念であります。

それでも「同窓会創立50周年記念誌」は準備を進めております。その歴史を振り返り、多くの皆様の寄稿により充実した貴重な記念誌になると思っております。どうぞご期待ください。

誰もが想定できなかった100年に一度の公衆衛生危

機といわれる新型コロナウイルス感染拡大の影響で大学はオンライン授業となり、学生一般の方の入構制限も実施され、国からの「緊急事態宣言」もあり同窓会活動も自粛を余儀なくされているところではありますが、同窓会は常に未来を見据えて動いております。

未来の同窓会員となる学生の皆様の支援に少しでもお役に立てればと思っておりますし、平成、令和の卒業生の参加を呼び掛けております。そんな中、九州で2番目の支部、大分県支部が10月に設立総会を実施します。50周年を機に同窓会の交流が益々盛んになればと思っております。

同窓会には様々なストーリーがありますが、私には特に「きずな」の発刊が強烈な思い出であります。新聞形式からタブロイド判を経て雑誌形式になり大きく変わったことであります。2009年(平成21年)4月、新しい同

窓会情報誌の発刊に向けて大学と同窓会の会合が設けられました。時の同窓会長三浦英之氏、副会長高橋伸治氏に声をかけていただき、私も会合に参加することになりました。何回か会合を重ねる中で、会合のメンバーからタイトルを募集し、数々の候補から「きずな」に決定しました。この名づけ親は故・三浦英之氏であります。新しい号を手にするたびに氏の顔が浮かびます。第1号は当

時の島田学長、原田理事長、三浦会長はじめ諸先輩からの「お祝いのことば」が誌面を飾り、大学情報、同窓会総会、ホームカミングデー、大学瑞穂祭、支部・同期会情報、

同窓生寄稿等で充実した創刊号の発刊となり大きな感動でありました。年3冊発行、今号は34号ですから12年になります。内容も表紙は写真部学生の作品、時の話題の特集（入学式・学位記授与式等）、活躍する同窓生の近況、同窓生のお宿・お店紹介、同窓会情報に加えて学園情報、社長をされている同窓生の会（CUC経営者会議）、教育後援会（保護者会）情報など内容も年々充実しております。第34号は同窓会50周年記念号であり、大学、CUC経営者会議、教育後援会の皆様からお祝いの言葉をいただいております。正に胸が熱くなる思いであります。初代編集長内田茂男先生、二代目高橋伸治氏、三代目瀧上信

光先生のもとで私も皆様に支えていただき、「きずな」創刊号よりお手伝いをさせていただくことができました。これも大学庶務課の皆様の大なるご協力があればこそであり深く感謝するものであります。50周年を機に同窓生をはじめ一人でも多くの方々に読んでいただけることを願っております。

この度、同窓会独自のロゴデザインが完成いたしました。今後は同窓会のシンボルになります。一層、気を引き締めていきたいと思っております。

同窓会創立50周年の意義を深くかみしめ、同窓会の基本理念である母校の発展に寄与することを念頭に基盤強化と人脈の強化を図り、今後の活動に役立てていきたいと思っております。

活躍する同窓生 〈卒業生からのメッセージ〉

学生時代と社会との関わり

CUC 経営者会議会長 ● 石井 一男 (昭46 商)



千葉商科大学商経学部商学科に入学を許可されたのが昭和42年4月でした。

希望にあふれ入学式に臨み、その後オリエンテーションがあり、クラブの勧誘があり、当時ダークダックスやボニージャックスといった、男性合唱のハーモニーに魅せられ、グリーンクラブに入部しました。

卒業から49年、同窓会発足50年と同時代を過ごしてまいりました。同窓会発足50年に際し、心からお祝いを申し上げます。発足当時の役員の皆様のご苦勞に心から敬

意を表したいと思います。学園側との意思の疎通を図りながら、立派な同窓会組織を確立されましたこと、重ね重ねお祝いを申し上げます。

我々の世代は団塊の世代であり、敗戦国としてどのような社会を形成していくかと国全体で思索し、どのような行動をしていくかが問われていた時代で、安全保障の問題や、社会が共産化し、労働争議が頻繁に行われ、活動家が跋扈していた時代で、我々の時は特に学生運動が華やかなりし頃でした。

1954年から1960年日米安全保障条約、反対する労働者、学生、運動家、共産主義者、左翼の運動家等々。そして全学連の活動。

東大学生と当局の問題、全国医学生生の研修医の待遇改善から火が付いた、学生運動の広まり、東大安田講堂占拠、各大学のバリケードによる学内閉鎖と、学問をする



私と瑞穂祭

株式会社トキワ代表取締役 ● 萩原重睦（昭53 経営）

千葉商科大学同窓会発足50周年、心からお喜び申し上げます。その発足当初在学していた私の当時の隠されたエピソード（笑）、もう時

霧囲気ではありませんでした。多くの友人も逮捕されていましたが、私はノンポリで革命なんかできるわけないと思っていました。

そういう中、グリーククラブで皆と一緒に合唱をしてみました。東京文化会館、千葉文化会館、市川市文化会館でのコンサートを開催したことは一生の思い出であり、開催にあたりパンフレットを作成したり、そのパンフレットへの広告掲載の原稿依頼や、企画書作成やら大変でしたが、社会に出て役に立ったという記憶があります。

大学は一昨年90周年。100周年へさらなる飛躍とOB会の益々の発展を期待いたしております。

効かと思えますので、この寄稿の機会をお借りしてお話しさせていただきます。

大学時代の私は言わば「2足のわらじ」を履いていた。そのわらじとは、本分である学生ともう一つは芸能プロダクションの社員。高校時代から始めた音楽のバンド活動が大学時代に本格的になり、芸能事務所所属。プロとしてコンサート活動をしていた。

その後バンドは解散したが、その事務所の社長の勧めからスタッフとして残り、今度は裏方としてコンサートの企画制作を手掛けることとなった。

そんなある日、「萩原君、君の大学の学園祭の仕事を取って来ないか」と言う社長の指示から私の大学生活最大のエピソードは始まった。企画制作事業を手掛ける芸能事務所にとって、大学の学園祭の仕込みは収入源の一つ。どの



44年間大切に保管してきた私のお宝チケット

雰囲気ではありませんでした。多くの友人も逮捕されましたが、私はノンポリで革命なんかできるわけがないと思っていました。

そういう中、グリークラブで皆と一緒に合唱をしていました。東京文化会館、千葉文化会館、市川市文化会館でのコンサートを開催したことは一生の思い出であり、開催にあたりパンフレットを作成したり、そのパンフレットへの広告掲載の原稿依頼や、企画書作成やら大変でしたが、社会に出て役に立ったという記憶があります。

大学は一昨年90周年。100周年へさらなる飛躍とOB会の益々の発展を期待いたしております。